



平成29年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成28年10月31日

上場会社名 株式会社ダスキン 上場取引所 東
 コード番号 4665 URL <http://www.duskin.co.jp/corp/index.html>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山村 輝治
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長 (氏名) 内藤 秀幸 TEL 06-6821-5071
 四半期報告書提出予定日 平成28年11月11日 配当支払開始予定日 平成28年12月5日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 平成29年3月期第2四半期の連結業績（平成28年4月1日～平成28年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	81,091	△1.7	2,514	△6.2	3,406	△0.8	2,105	7.3
28年3月期第2四半期	82,530	△1.3	2,681	44.3	3,432	21.9	1,962	33.5

（注）包括利益 29年3月期第2四半期 928百万円（△65.1％） 28年3月期第2四半期 2,657百万円（△12.7％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第2四半期	38.06	—
28年3月期第2四半期	33.50	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第2四半期	186,150	141,870	75.8
28年3月期	190,322	143,648	75.0

（参考）自己資本 29年3月期第2四半期 141,022百万円 28年3月期 142,727百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	20.00	—	20.00	40.00
29年3月期	—	20.00	—	—	—
29年3月期（予想）	—	—	—	20.00	40.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成29年3月期の連結業績予想（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	166,500	0.8	4,400	△18.1	5,500	△18.0	3,100	3.9	56.72

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

当社は平成28年7月29日開催の取締役会において、自己株式の取得について決議いたしました。連結業績予想の「1株当たり当期純利益」については、当該自己株式の取得の影響を考慮しております。また、現在、下半期の施策・経費使用時期等について精査・再検討中であり、通期業績予想を修正すべきと判断した場合はできる限り早期に開示いたします。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注)詳細は、添付資料P.6「2.サマリー情報（注記事項）に関する事項（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年3月期2Q	57,494,823株	28年3月期	57,494,823株
② 期末自己株式数	29年3月期2Q	2,838,197株	28年3月期	1,948,572株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年3月期2Q	55,331,121株	28年3月期2Q	58,573,005株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続きは終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
(4) 追加情報	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（平成28年4月1日～平成28年9月30日、以下「当第2四半期」）の我が国経済は、全体としては回復基調で推移したものの、4月に発生した「熊本地震」や深刻な台風被害等の影響もあって今一つ力強さを欠く展開となりました。また、中国経済の減速、英国のEU（欧州連合）からの離脱決定等、先行きの不透明感が一層増しております。

長期ビジョン「ONE DUSKIN」の第1フェーズ「中期経営方針2015」の2年目を迎えている当社は、経営環境の厳しさが増す中、業績回復及びその後の業容拡大のための礎作りの各種取り組みに注力しております。

事業面におきましては、クリーン・ケアグループでは、お客様との接点強化・多様化のための種々検証、生産・物流・調達及び情報システム等コスト見直しへの継続的取り組みの他、共働き世帯や子育て世代等が望む“より効率的なおそうじ”ニーズに対応した新サービス「ロボットクリーナーSiRo」の一部地域でのレンタルサービスを開始しました。フードグループでは、主力のミスタードーナツにおいては引き続きお客様ニーズに適う商品の開発に注力しつつ、中長期的なブランドの再構築に取り組み、また、その他フード事業の育成も推進しました。更に、マレーシアのドーナツチェーン企業の子会社化等、海外事業の拡大にも取り組んでおります。

事業面以外でも、非正規雇用者を勤務地や人事異動を限定した正社員として登用する制度の創設や、政府が国家戦略特別地域で進める家事支援外国人受入事業に対して、神奈川県、大阪府の特定機関の認定を受ける等多様な人材確保のための各種取り組みも実行しました。

当第2四半期の業績は、売上高につきましては、クリーン・ケアグループが微増となったものの、フードグループの減収により、連結売上高は前年同期から14億38百万円（1.7%）減少し810億91百万円となりました。利益面につきましては、減収影響に加え、退職給付費用の増加（6億円）、フードグループの原材料等の配送費用増加（4億円）、クリーン・ケアグループ販売促進費の増加（3億円）等により、連結営業利益は前年同期から1億66百万円（6.2%）減少し25億14百万円、連結経常利益は26百万円（0.8%）減少し34億6百万円となりました。4月に発生した熊本地震に伴う損失を計上したものの、固定資産廃棄損の減少等で特別損益が改善し、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期から1億43百万円（7.3%）増加し21億5百万円となりました。

(単位：百万円)

	前第2四半期 (平成28年3月期第2四半期)	当第2四半期 (平成29年3月期第2四半期)	増 減	
			増 減	増減率 (%)
連結売上高	82,530	81,091	△1,438	△1.7
連結営業利益	2,681	2,514	△166	△6.2
連結経常利益	3,432	3,406	△26	△0.8
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,962	2,105	143	7.3

<セグメント毎の状況>

①クリーン・ケアグループ

主力のダストコントロール商品の売上高は、フランチャイズ加盟店から前期に譲受した拠点の売上が計上されたものの、フランチャイズ加盟店向け売上高は減少し前年同期の売上高を下回る結果となりました。しかしながら、レントオール事業（日用品、イベント用品等のレンタル）、化粧品関連事業の増収によりクリーン・ケアグループ全体の売上高は、前年同期から2億14百万円（0.4%）増加し552億21百万円となりました。

営業利益につきましては、販売促進費の増加、退職給付費用の増加等により経費が増加したものの、「スタイルクリーナー」の原価減少、マット等の新布投入の減少、更には重油価格下落の影響も加わり売上原価が改善した結果、前年同期に比べ2億76百万円（4.5%）増加し63億60百万円となりました。

(単位：百万円)

	前第2四半期 (平成28年3月期第2四半期)	当第2四半期 (平成29年3月期第2四半期)	増 減	
			増 減	増減率 (%)
売上高	55,007	55,221	214	0.4
営業利益	6,084	6,360	276	4.5

家庭向けのダストコントロール商品の売上高は減少しました。販売に注力しているフロアモップ「LaLa」、ハンディモップ「shushu」、「スタイルクリーナー」をセットにした商品「おそうじベーシック3」の売上高は増加したものの、その他モップの売上高が減少した結果、モップ商品全体では前年同期の売上高を下回った他、前期7月にリニューアルと同時に価格改定を実施した「台所用スポンジ」の売上高が、前年同期の加盟店による駆け込み仕入れの反動により減少、フィルター商品や浄水器関連商品等の売上高も減少しました。多くの商品・サービスの売上高が減少する中、丸ごと水洗いすることでダニのフンや死がい、汗等の汚れを取り除く「ふとん丸洗い宅配サービス」は、宅配便でやり取りする手軽さとwebサイトの充実、チラシ等によるサービス認知度向上の結果、前年同期の売上高を上回りました。

一方、事業所向けのダストコントロール商品につきましては、新たなお客様との接点作りツールの1つとして前期発売を開始した「配置ドリンクサービス」が当期も順調に推移している他、宅配水ボトルの交換が不要で水道水を注ぐだけの浄水機能付きウォーターサーバー、「芳香ドーム（小便器用洗浄防汚芳香剤）」等、当期の新発売商品の売上寄与もあり、前年同期の売上高を上回りました。しかしながら、主力商品であるマット商品は、屋内専用オーダーメイドマット「インサイド」、「うす型吸塵吸水マット」等、当社独自の高性能マットの売上高は前期に引き続き好調に推移したものの、その他マットの売上高が減少し、全体では微減となりました。

役務提供サービスにつきましては、サービス実施時に使用する資器材のフランチャイズ加盟店向け売上高は減少したものの、市場ニーズの高まりを受けサービススタッフの増員を図ったことで「エアコンクリーニング」や「家事おてっだいサービス」等のお客様売上が増加しロイヤルティ収入は増加しました。更に、前期にフランチャイズ加盟店から譲受した拠点の売上高も加わり、役務提供サービス全体の売上高は前年同期を上回りました。

クリーン・ケアグループのその他の事業は、高齢者向け生活支援サービスのホームインステッド事業が減収となったものの、イベント関連用品等が好調に推移したレントオール事業、及びユニフォーム関連事業、化粧品関連事業は増収となりました。

②フードグループ

フードグループの売上高は、前年同期から18億33百万円（8.3%）減少し202億85百万円となりました。昨年10月に新たにスタートした「パイフェイス」の売上寄与の他、とんかつレストラン「かつアンドかつ」等が好調に推移しましたが、フードグループの主力であるミスタードーナツのお客様売上が大きく減少し、ロイヤルティ収入、加盟店への原材料等売上高が減少しました。

利益面につきましては、減収影響に加えて原材料等の配送費用増加等により、前年同期から1億88百万円減少し5億65百万円の営業損失を計上することとなりました。

（単位：百万円）

	前第2四半期 (平成28年3月期第2四半期)	当第2四半期 (平成29年3月期第2四半期)	増 減	
			増 減	増減率 (%)
売上高	22,118	20,285	△1,833	△8.3
営業損失 (△)	△377	△565	△188	—

ミスタードーナツは、第1四半期の「クロワッサンマフィン」「和ドーナツ」「塩ドーナツ」「コットンスノーキャンディ」に続いて、人気の定番ドーナツが一口サイズになって楽しめ、子供会等の集まりや差し入れに最適な「ドーナツポップ」を7月に発売、8月には「マロンドーナツ」、9月には、人気キャラクター“スヌーピー”とコラボレーションした「ハロウィーンドーナツ」等、季節や催事に合わせた話題性のある商品を発売しました。更には、一昨年の5月から毎月開催している「ミストファンミーティング」でのお客様の声から生まれた取り組み「夢のドーナツフェア」（人気の定番ドーナツをアレンジして開発した商品を期間限定で販売）や「ドーナツビュッフェ」（予約制の制限時間内食べ放題企画）も奏功し、新商品による売上寄与は前期を上回ったものの、不採算店舗クローズに伴う稼働店舗数の減少影響等により、全店お客様売上は前年同期を大きく下回る結果となりました。

一方で、中期的なブランド再構築を目指した取り組みとして、新しいコンセプトの店舗タイプ「V/21」への改装促進、集客力のある商業施設や駅近隣の立地等に適したテイクアウト専門店「Mister Donut to go」の開発、株式会社ストロベリーコーンズとの業務提携によるピザ販売・デリバリーの検証を進めております。

その他のフード事業につきましては、店舗数が減少した「ザ・どん」「カフェデュモンド」が減収となった一方、4月に1店舗をオープンした「パイフェイス」、4月に2店舗、7月に3店舗をオープンした「ザ・シフォン&スプーン」、前期中の出店で稼働店舗数が増加した「かつアンドかつ」「ベーカリーファクトリー」が増収となり、全体では前年同期の売上高を上回りました。また、アイスクリーム製造の連結子会社蜂屋乳業株式会社も委託元が増加したことに加え、今夏の猛暑の影響で増収となりました。

③その他

その他につきましては、期中の為替が前年同期の水準に比べて円高で推移したことに加えて、ダスキン共益株式会社（リース及び保険代理業）が減収となった他、楽清香港有限公司（原材料及び資器材の調達）もペーパータオルの取扱量減少により減収となりました。しかしながら、楽清（上海）清潔用具租賃有限公司（中国（上海）でクリーン・ケア事業を展開）が好調に推移したことに加え、前期8月に出資持分を追加取得し新たに連結子会社となった美仕唐納滋（上海）食品有限公司（中国（上海）でミスタードーナツ事業を展開）の売上が計上されたこと、病院施設のマネジメントサービスを手掛ける株式会社ダスキンヘルスケアは増収となったことで、その他全体の売上高は、前年同期から1億80百万円（3.3%）増加し55億84百万円となりました。

営業利益につきましては、前年同期から1億48百万円増加し1億43百万円となりました。

（単位：百万円）

	前第2四半期 (平成28年3月期第2四半期)	当第2四半期 (平成29年3月期第2四半期)	増 減	
			増 減	増減率 (%)
売上高	5,404	5,584	180	3.3
営業利益又は 営業損失 (△)	△5	143	148	—

海外事業の動静につきましては、クリーン・ケア事業を展開している台湾、中国（上海）、韓国につきましては、いずれもお客様売上は前年同期を上回り、特に中国（上海）の家庭向けダストコントロール商品売上は好調に推移しました。ミスタードーナツ事業は、台湾、中国（上海）、韓国、フィリピン、マレーシアは順調で前期のお客様売上を上回りましたが、タイのお客様売上は減少しました。なお、昨年5月に1号店をオープンしたインドネシアは順調に推移しております。

なお、上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

（2）財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産残高は、1,861億50百万円となりました。前連結会計年度末（以下「前期末」という）と比較して41億71百万円減少しております。その要因は、有価証券が43億円、投資有価証券が16億30百万円減少したこと等であります。

負債残高は442億80百万円となり、前期末と比較して23億93百万円減少しております。その要因は、未払金が16億2百万円、支払手形及び買掛金が8億38百万円減少したこと等であります。

純資産残高は1,418億70百万円となり、前期末と比較して17億78百万円減少しております。その要因は、自己株式の取得により15億91百万円減少したこと等であります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年3月期（平成28年4月1日～平成29年3月31日）通期の業績予想につきましては、平成28年5月13日に公表した従来予想を変更しておりません。

なお現在、下半期の施策・経費使用時期等について精査・再検討中であり、通期業績予想を修正すべきと判断した場合はできる限り早期に開示いたします。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

連結子会社の税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

（4）追加情報

（繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用）

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,006	19,659
受取手形及び売掛金	10,109	9,360
リース投資資産	1,460	1,396
有価証券	19,528	15,227
商品及び製品	7,590	7,723
仕掛品	174	175
原材料及び貯蔵品	1,432	1,468
繰延税金資産	1,473	1,413
その他	2,524	4,661
貸倒引当金	△39	△44
流動資産合計	63,260	61,041
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	44,397	44,773
減価償却累計額	△25,494	△26,081
建物及び構築物（純額）	18,902	18,692
機械装置及び運搬具	24,139	24,449
減価償却累計額	△17,618	△17,868
機械装置及び運搬具（純額）	6,520	6,580
土地	23,588	23,637
建設仮勘定	324	317
その他	13,100	12,026
減価償却累計額	△9,703	△8,738
その他（純額）	3,397	3,288
有形固定資産合計	52,733	52,516
無形固定資産		
のれん	305	580
その他	7,263	6,543
無形固定資産合計	7,569	7,123
投資その他の資産		
投資有価証券	56,608	54,978
長期貸付金	8	6
繰延税金資産	2,283	2,842
差入保証金	6,408	6,323
その他	1,596	1,450
貸倒引当金	△147	△132
投資その他の資産合計	66,758	65,469
固定資産合計	127,062	125,109
資産合計	190,322	186,150

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,353	6,515
短期借入金	—	12
1年内返済予定の長期借入金	9	9
未払法人税等	413	1,265
賞与引当金	2,876	2,812
資産除去債務	8	7
未払金	7,057	5,455
レンタル品預り保証金	9,657	9,431
その他	4,552	4,078
流動負債合計	31,929	29,589
固定負債		
長期借入金	10	5
退職給付に係る負債	13,286	13,204
資産除去債務	643	665
長期預り保証金	728	740
長期未払金	74	74
その他	0	0
固定負債合計	14,744	14,690
負債合計	46,673	44,280
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,352	11,352
資本剰余金	10,835	10,835
利益剰余金	119,910	120,905
自己株式	△3,843	△5,434
株主資本合計	138,255	137,659
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,462	7,081
繰延ヘッジ損益	△18	△17
為替換算調整勘定	△37	△300
退職給付に係る調整累計額	△3,934	△3,400
その他の包括利益累計額合計	4,472	3,363
非支配株主持分	920	848
純資産合計	143,648	141,870
負債純資産合計	190,322	186,150

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	82,530	81,091
売上原価	47,732	44,876
売上総利益	34,797	36,214
販売費及び一般管理費	32,116	33,699
営業利益	2,681	2,514
営業外収益		
受取利息	317	213
受取配当金	140	158
設備賃貸料	47	49
受取手数料	124	122
持分法による投資利益	57	100
雑収入	251	433
営業外収益合計	939	1,077
営業外費用		
支払利息	0	0
為替差損	19	56
支払補償費	23	26
自己株式取得費用	44	1
雑損失	100	101
営業外費用合計	188	186
経常利益	3,432	3,406
特別利益		
固定資産売却益	4	0
負ののれん発生益	50	—
投資有価証券清算益	—	114
その他	10	0
特別利益合計	64	115
特別損失		
固定資産売却損	4	15
固定資産廃棄損	137	49
減損損失	130	67
関係会社清算損	115	—
災害による損失	—	153
その他	0	1
特別損失合計	388	286
税金等調整前四半期純利益	3,108	3,234
法人税等	1,266	1,141
四半期純利益	1,842	2,093
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△119	△12
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,962	2,105

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
四半期純利益	1,842	2,093
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	589	△1,381
繰延ヘッジ損益	△0	0
為替換算調整勘定	88	△171
退職給付に係る調整額	136	530
持分法適用会社に対する持分相当額	0	△143
その他の包括利益合計	814	△1,165
四半期包括利益	2,657	928
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,728	997
非支配株主に係る四半期包括利益	△71	△68

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自平成27年4月1日至平成27年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	クリーン・ケア グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	55,007	22,118	5,404	82,530	—	82,530
セグメント間の内部売上高 又は振替高	487	6	1,440	1,934	△1,934	—
計	55,494	22,124	6,845	84,464	△1,934	82,530
セグメント利益又は損失(△)	6,084	△377	△5	5,701	△3,020	2,681

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△3,020百万円には、セグメント間取引消去5百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△3,026百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第2四半期連結累計期間において、のれんの金額に重要な影響を及ぼす事象はありません。

なお、のれんの当第2四半期連結累計期間の償却額及び当第2四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	クリーン・ケア グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第2四半期連結累計期間償却額	62	35	—	—	97
当第2四半期連結会計期間末残高(注)	284	125	—	—	410

(注) 当第2四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高283百万円(クリーン・ケアグループ)と平成24年5月に取得した蜂屋乳業株式会社ののれん残高111百万円(フードグループ)等であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自平成28年4月1日至平成28年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	クリーン・ケア グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	55,221	20,285	5,584	81,091	—	81,091
セグメント間の内部売上高 又は振替高	408	5	1,131	1,545	△1,545	—
計	55,629	20,290	6,715	82,636	△1,545	81,091
セグメント利益又は損失(△)	6,360	△565	143	5,937	△3,423	2,514

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△3,423百万円には、セグメント間取引消去33百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△3,456百万円が含まれております。
3. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「クリーン・ケアグループ」において、事業譲受により株式会社ダスキン八代に1億42百万円、株式会社ダスキン鹿児島に1億45百万円のものれんが当第2四半期連結累計期間で発生しております。

なお、のれんの当第2四半期連結累計期間の償却額及び当第2四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	クリーン・ケア グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第2四半期連結累計期間償却額	93	5	—	—	99
当第2四半期連結会計期間末残高(注)	534	45	—	—	580

- (注) 当第2四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高534百万円(クリーン・ケアグループ)、45百万円(フードグループ)であります。

(重要な負のものれん発生益)

該当事項はありません。